



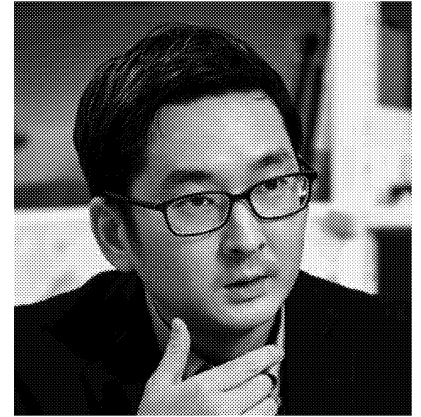
(1面参照)

急激に進んだデジタル化（DX）は世界をどう変えるのか。中国をはじめ新興国の動向に詳しい東大の伊藤亜聖准教授に聞いた。

——新型コロナウイルス禍のDXは新興国をどう変えていますか。

「可能性とリスクの双方を増幅している。インドは生体認証IDを利用して多くの貧困層に給付金などの支援をしたし、インドネシアでは遠隔医療サービスが立ち上がった。いずれもコロナ前から用意されていた

DX時代 人口が覇権左右



いとう・あせい 慶大院博士課程修了。専門は中国経済論、現地のイノベーション創出に詳しい。2017年から現職、36歳

東大准教授

伊藤 亜聖氏

DXが開花した。一方、新き下げがどの国にも利益を興国にはインターネットのアクセスに乏しく、端末を保持しない人も多くいる。特に低所得層との間のデジタル格差は深刻になった」

——データ保護のあり方など、DX時代のルールは国によってバラバラになりがちです。

「モノの貿易が中心だった時代の地域統合は関税引

「一方、デジタルサービスの国境を越えた拡大は、データ保護や安全保障の問題が複雑に絡み合い、共通理解が得にくい。欧州連合（EU）や中国といった単

「中国がDXの次にどのような変革の原動力を持つかに興味を持っている。時に非効率性を伴いながらも、中国国内にイノベーションを生むエコシステム（生態系）はできあがりつつある。ただし『発展こそ根本原理』としてきた中国が、発展の定義を変えて、国家の安全を優先する方へと変わりつつあるようにも見える。変革と成熟のはざままで揺れる体制を注視していきたい」

（聞き手は高橋元気）

位の枠組みはできても、国際のルール形成は見通せない」

——覇権を握るのは米中のように巨大なIT（情報技術）企業を抱えた国でしようか。

「一概にそうとも言えない。人口の多い国は、ネットユーザーが多い国でもある。巨大な市場を交渉材料として、巨大IT企業とも対峙しうる。デジタル時代のパワーは中世のように人口規模に規定される面がある。先進国で人口1・3億人の日本よりも2・7億人の新興国インドネシアが交渉力を発揮することもありうる」

「中国がDXの次にどのような変革の原動力を持つかに興味を持っている。時に非効率性を伴いながらも、中国国内にイノベーションを生むエコシステム（生態系）はできあがりつつある。ただし『発展こそ根本原理』としてきた中国が、発展の定義を変えて、国家の安全を優先する方へと変わりつつあるようにも見える。変革と成熟のはざままで揺れる体制を注視していきたい」

（聞き手は高橋元気）